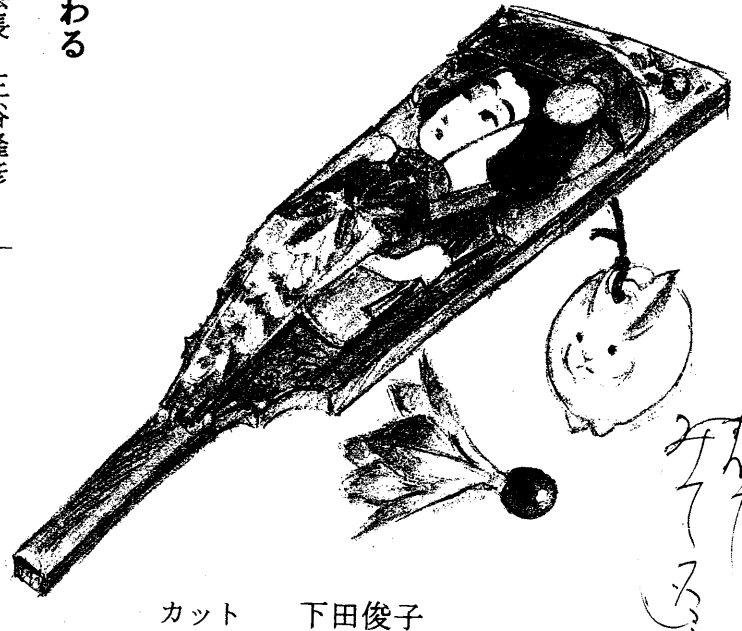


# 高退協ニュース

高知高退協事務局  
2011.1.1 No.168  
2011年1月1日

高知県高等学校退職教職員協議会  
高知市丸の内2丁目11-10  
TEL 088-1822-16822  
TEL 088-1822-11893  
郵便振替口座 0165012111893



カット 下田俊子

## 行きまわる

会長 三谷隆彦

新年おめでとうございます。高退協の活動にご協力いただき有難うございます。本年もどうか宜しくお願いします。今年には全退教旅行が十月に徳島香川の両県であります。全国の皆さんとの交流に大勢の参加をお願いします。

会員の浜田昌俊氏や久万田登志子氏両先輩は米寿を過ぎても若い者と一緒に登山を楽しんでいます。お二人とも歩く走るなど日常的に体力の維持に努めています。

高退協昨年の温泉昼食会が高知市柴巻へ行き、龍馬が子どもの頃に登った八疊岩から太平洋を見渡しました。山の会で阿波祖谷の国見山（海拔1409m）へ登りました。頂上は360度の展望で四国の山々を眺めることができました。また町内会で伊予の別子鉱山へ行きました。東洋のマチュピチュとも言われ、かつては四千人が住み、銅を採掘して新居浜へ送った工場跡が観光地になっています。昨年私はイスラエルを旅しました。三千年昔から戦争を続けている不思議な地域です。

第二次大戦後も四〇五回戦争をしています。ユダヤ教キリスト教イスラム教の聖地です。安心立命を願う宗教が政治、経済、民族などが絡みまると人が人を殺す戦争になります。近年衛星放送の発達で国内外の風景や市民生活を茶の間で見ることが出来るようになりました。映像も市販されています。実際に行くよりも安全で安価です。テレビを見ながら眠ると夢の国です。今年の卯年は地図を片手に足を使って目を使って世界中をあちこち、ぴよんぴよん行きまわれそうです。

正月の馳走を前に、コメについて考えてみた。

トラクター854万円・コンバイン1367万円、農業従事者一人当たりの農地面積2.4畝では、投資できる金額ではない。

農業人口は224万人中六五歳以上が61%、2ちゃん農業では、トラクター・コンバイン・乾燥機を備えた農家に当てて農地を守っている。

昨年、新聞には、「急浮上TPP」・日曜討論でもとりあげられた。環太平洋戦略的

## 飲水思源

源、原、還 横田慧

高退協ニュースの貴重な紙面に、思いつくままのことを書かせて頂いています。その何回か、この欄に命名せよと言われ、「飲水思源」としました。

そもその話になります。十五年前の退職の時に私は、「自由に生きるぞ」と心に決めました。今の世で一人だけ「自由に生きる」ことなどできるわけがありません。このとき私の胸の内にあったのは、ソクラテスの言った「閑暇は人間が持ついちばん美しいもの」と、マルクスの言葉「自由な時間が富そのもの」でした。この二つの言葉は未来社会では、がっちり結ばれます。ただ、誰にとってもそれが現実になるのはまだ遠い話です。しかし、そのような未来社会を待たずに、私は主体的に「自由を」と欲張ったのでした。といっても第一歩はしれたもので、出版されたばかりの、谷川俊太郎ほか編『世界ことわざ大事典』を読まざるを得ませんでした。エングルスが言い遺してくれた「人間は弁証法がなんであるかを知るよりずっと前から弁証法的に考えてきた」の証拠探しです。探しているうちに、中国の「飲水思源」に出会いました。これは清の時代の小説『儿女英雄伝』にでてくるもので、意味は「水を飲むときは井戸を掘った人のことを思え」だそうなんです。私はこの小説を読んでいません。しかし、ジーンと来るものがありました。この「源」を起源、原理、原点などと広げて考え

経済連携協定に政府は「協議を開始」する。

現在、食料率40%、関税撤廃する環太平洋パートナーシップ協定に参加した場合、農水省の試算では、コメ生産は90%減、食料自給率12%になる。JAは、こぞって反対決議を上げている。

日本の農業、コメ作りを支援する国民は、夕食の麦を減らし、ご飯を食しよう。高退協の、新しいクラブになつた「家庭菜園懇談会」に参加し、日本の食を考えよう。

## 望年会

一二月一〇日、高退協2010年度の望年会・芸能祭・作品展が行なわれました。40名以上の参加者で華やかな踊り、歌がステージで繰り広げられて歓談が進みました。

高知城ホール4階の会場壁面には力作の作品がずらりと並び、にぎやかでリラックスした雰囲気の中にも文化の香りのする楽しい会になりました。

井垣先生の音頭で緑の山河を唄い、会員の皆様の健康と次期県議選に立候補予定の橋元先生激励エールが行なわれました。

### 作品の紹介

- (写真) 加藤敏恵 中村正博 野島幸代 濱田隆史 和田明 竹本長生
  - (絵画) 國松勝 山口享男 南千加良 矢野川滝男 山口幸夫
  - (さおり織り) 川村かつえ
- の各先生方です。

# 「暮らしと教育を守る」 橋元陽一さん出馬

2011年4月1日告示、10日投票の県議員選挙の高岡郡選挙区（定数4名）に、高教組教文、書記長、委員長を歴任した橋元さんが『健やかに生まれる』『健やかに育つ』『健やかに老いる』ことができる地域づくりをめざして、立候補します。

鹿児島にいるお母さんの孝行のために2年を残して退職された橋元さんでしたが、多忙化で苦しむ現職教職員のため、生活を少しでも良くしたい地域住民のため、「改革」ポーズで地方を破壊する逆流に正面から立ち向かうため、困難な中で立候補を決意されました。

立候補の知らせを聞いたとき仲間は「勇気をもらった」「教え子に勧めたい」「現職への激励になる」など、大いに盛り上がりました。

今、橋元さんは高岡郡内の町村議員と共に各地を廻り、地域の要望を聞くために奮闘しています。また、去る11月5日には、高教組高吾支部と高岡郡教組の共催で激励会、12月には高教組全体で激励会を開きました。退職者も1月中旬には、橋元さんの地元、佐川町で激励会を開いて必勝を期します。

（文責 梶原）

## 今高教組は

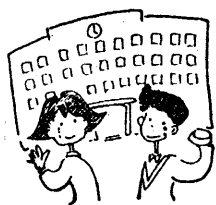
米満敏孝

一〇月三〇・三十一、未来をひらく教育のつどい二〇一〇年度高校・障害児学校教育研究会を開催しました。同集会実行委員会には、高退協から橋元さんと島本さんが、実行委員として企画段階から参加していただきました。

初日は、高知市勤労者交流館を会場に五五名が参加し、「高校生のお会い・発見・つながり」「学力保障・進路指導」「学校づくり・教育条件整備」の3つ分科会と全体会・シンポジウム「子ども・学校・地域の現実から高知の高校・障害児教育を考える」を、二日目は、高知女子大学永国寺キャンパスに会場を移し、三九名が参加して、「障害のある子どもたちと学校づくり・地域づくり」分科会をもちました。

今年のとどいでは、全体会・分科会を通じて、基礎学力が定着していない子どもたちやさまざまな支援を必要とする子どもたちの現実をどう認識していけばよいのかが問われるとともに

に、これからの高知の高校・障害児教育を考えていくにあたって、そのような現実を踏まえ、多様な子どもたちの可能性を引き出す、より充実した教育の機会の保障はどうあるべきかが真摯に議論されたことに、その特徴がありました。教科別の分科会は、3月5日（土）に行います。退職された皆様も是非参加して、ご助言下さい。



### 追悼

本田 学さん  
二〇一〇年九月  
逝去されました。

土居 昌紀さん  
二〇一〇年十一月  
逝去されました。

謹んでお悔やみ  
申しあげます

### 短歌

富士を見に

榊原忠彦

郵便局へ行けば、兎の切手シート  
新年われら生くべしと思ふ

八階のわが病棟のロビーへは  
富士を見にゆく朝ゆふべに

小春日和病室の窓も明るくて  
裾引く筑波山雲一つなし

希望

山本晶子

希望なき時代と言えど希望はある  
生きているのだ手足は動く  
ホームレスに生活保護をと支援  
の人ら師走の街に今日も集いつ  
様々なる憂いごとある日本なれ  
ど見守りゆかんこの世の推移を

いつか必ず

叶岡淑子

新しき年迎えたりこの星の阿鼻  
叫喚をかかえしままに  
沖縄よアフガン・イラクよ人類よ  
もうたくさんだ戦争なんて

私たちはいつか必ず勝ちますと  
闘う人の珠玉の言葉  
（沖縄知事選後の伊波洋一氏）  
前号ミスプリ 榊原さんの二首目  
結句「恥じる」は「恥じよ」でした。  
お詫びして訂正します。

### 俳句

十月十六日 土曜

春野町・秋山

第三十四番札所種間寺

合田青幹

種間寺に秋冷到る一会かな  
お遍路の装束胸に赤い羽根

吉本伸秋

唐辛子赤し煩惱断ちがたし

刈萱の絮日を連れて

飛び翔ちぬ

中内英明

里山のばさと竹伐る一処

丈低きコスモス畑の迷路かな  
中内みち代

秋麗ら亀が首出す菱置

野路楽し目を止めては草の花

小笠原さちを

木犀の香の曲り来る曲り堀

水鶏笛しきりに沼の秋深む

### 川柳

溪流の抄⑤

小澤 幸泉

ラッシュにも負けない父の  
ちびた靴

それぞれの秋を編みつつ  
旅の宿

赤と黒墓石に刻む  
夫婦愛

一枚の絵画に酔える  
父の青春

血糖値と仲良く暮らす  
ことになり

生かされる日々には  
不満が残りすぎ

結局に何処に着くや  
神の道

み言葉に養われゆく  
老いの秋

足あとがまたひとつ消え  
坂のぼる

燃え尽きぬいのち  
短かしの恋の秋

読書の頁 老眼鏡  
『老いてこそ輝け』  
(河合聰・新日本出版社刊)

小澤幸泉/幸次郎

人は誰しも老いる。それは避けることは出来ない。私は30歳になる1970年4月に日本福祉大学に入学し高齢者福祉Ⅱ「老人(老後)問題」の研究と実践する中で多くの年離れた人たちと関わりを持つてきたが、その人たちの人生にはもう大した希望も残されていないようにさえ見えたと、しかし、当時の自分もいずればそんな姿になることがあるとはとても考え及ばないことだった。しかし、自分が今その年齢(私は今年、2010年7月16日で満70歳になった)達してみると思いは複雑である。

「老いは前からやってくるだけではない。後ろからもそっと訪れる」と言われる。それまで元気いっぱい動き回っていたのに、なんとなく疲れが残るのを感じたり、人の名前が思い浮かばなかったり、話が聞き取りにくくなったり……。老いは人に気づかれないうちで顔をだし始めるようである。確かに老いは心身の衰えを伴うが、一方で豊かな経験と知識を身につけている。それらを生かして老いは人生における最も輝く時期であっ

ていいはずである。それなのに、どうして老いには暗くて重いイメージがつきまとうのだろうか。それは決して老いの持つ特性ではなく、社会の老いに対する歪んだ考え方がそうさせているのだと私は考える。また一口に「老い」と言ってもその内容は千差万別である。私たちは、さまざまな老いの姿に学びながら自分の老いの姿を探し求めるのが老いの課題であると思う。輝く老いとはどんな老いか。人生における老いを輝かせることができるとは、明日に向かって元気に老いを生き抜く勇気を与えてくれる。次のような内容構成で書かれている。I. 老いは人生の孤島ではない。人生の延長線上に現れる一時期だ。だ



から、老いも人生そのものであり、老いを意識しようがしまいが、青壮期に何を考えどんな生き方をしたかがその人の老いの姿を色濃く反映する。II. 老いの姿は一樣ではない。才能と知恵は同じではない。才能は若くして開花するが、知恵は豊富な経験と知識を必要とする。だから、老いて初めて見えてくるものがたくさんある。IV. 老いは、老いを取り巻く環境によって大きく左右される。老いの暗くて重いイメージは老いに付随する特性ではなく、福祉政策の行き届いた社会では、老いは人生の終焉ではなく、充実した時期であり、安らぎの時期でもある。V. 「高齢者Ⅱ社会的弱者」という社会的な偏見(老人(高齢者福祉)の研究と実践に取り組んでいた40年前の私の考え、意識はまさにそのようなものであった)を捨て、高齢者自身が豊かな社会作りの一翼を担う時代を迎えつつあると思う。前期高齢者の私は、今「全日本年金者組合」の活動、日本高齢者運動に参加し、いままでの人生で身につけた豊かな経験と知恵を発揮し、力を合わせて平和で豊かな社会を創り出し、次の世代に受け渡すという壮大な任務を果たそうとしている。そうした取り組みの中で、お互いに励まし合いながら、厳しい環境の中でも老いの有意義な生き方の一つとして充実した生き甲斐を生み出していけると確信しているのである。たくさんの老いの中には、燃え続ける老いもある。老いはそれぞれの姿をとるが、感謝と思いやりの気持ちを持ち、常に学ぶ心を忘れずにひた向きに生きる、それがすべてではないだろうか。そうした一途な姿の中から色とりどりの光で、老いは輝くのではないだろうか。まさに『老いてこそ輝け』である。

から、老いも人生そのものであり、老いを意識しようがしまいが、青壮期に何を考えどんな生き方をしたかがその人の老いの姿を色濃く反映する。

II. 老いの姿は一樣ではない。才能と知恵は同じではない。才能は若くして開花するが、知恵は豊富な経験と知識を必要とする。だから、老いて初めて見えてくるものがたくさんある。IV. 老いは、老いを取り巻く環境によって大きく左右される。老いの暗くて重いイメージは老いに付随する特性ではなく、福祉政策の行き届いた社会では、老いは人生の終焉ではなく、充実した時期であり、安らぎの時期でもある。V. 「高齢者Ⅱ社会的弱者」という社会的な偏見(老人(高齢者福祉)の研究と実践に取り組んでいた40年前の私の考え、意識はまさにそのようなものであった)を捨て、高齢者自身が豊かな社会作りの一翼を担う時代を迎えつつあると思う。前期高齢者の私は、今「全日本年金者組合」の活動、日本高齢者運動に参加し、いままでの人生で身につけた豊かな経験と知恵を発揮し、力を合わせて平和で豊かな社会を創り出し、次の世代に受け渡すという壮大な任務を果たそうとしている。そうした取り組みの中で、お互いに励まし合いながら、厳しい環境の中でも老いの有意義な生き方の一つとして充実した生き甲斐を生み出していけると確信しているのである。たくさんの老いの中には、燃え続ける老いもある。老いはそれぞれの姿をとるが、感謝と思いやりの気持ちを持ち、常に学ぶ心を忘れずにひた向きに生きる、それがすべてではないだろうか。そうした一途な姿の中から色とりどりの光で、老いは輝くのではないだろうか。まさに『老いてこそ輝け』である。

から、老いも人生そのものであり、老いを意識しようがしまいが、青壮期に何を考えどんな生き方をしたかがその人の老いの姿を色濃く反映する。

II. 老いの姿は一樣ではない。才能と知恵は同じではない。才能は若くして開花するが、知恵は豊富な経験と知識を必要とする。だから、老いて初めて見えてくるものがたくさんある。IV. 老いは、老いを取り巻く環境によって大きく左右される。老いの暗くて重いイメージは老いに付随する特性ではなく、福祉政策の行き届いた社会では、老いは人生の終焉ではなく、充実した時期であり、安らぎの時期でもある。V. 「高齢者Ⅱ社会的弱者」という社会的な偏見(老人(高齢者福祉)の研究と実践に取り組んでいた40年前の私の考え、意識はまさにそのようなものであった)を捨て、高齢者自身が豊かな社会作りの一翼を担う時代を迎えつつあると思う。前期高齢者の私は、今「全日本年金者組合」の活動、日本高齢者運動に参加し、いままでの人生で身につけた豊かな経験と知恵を発揮し、力を合わせて平和で豊かな社会を創り出し、次の世代に受け渡すという壮大な任務を果たそうとしている。そうした取り組みの中で、お互いに励まし合いながら、厳しい環境の中でも老いの有意義な生き方の一つとして充実した生き甲斐を生み出していけると確信しているのである。たくさんの老いの中には、燃え続ける老いもある。老いはそれぞれの姿をとるが、感謝と思いやりの気持ちを持ち、常に学ぶ心を忘れずにひた向きに生きる、それがすべてではないだろうか。そうした一途な姿の中から色とりどりの光で、老いは輝くのではないだろうか。まさに『老いてこそ輝け』である。

から、老いも人生そのものであり、老いを意識しようがしまいが、青壮期に何を考えどんな生き方をしたかがその人の老いの姿を色濃く反映する。

II. 老いの姿は一樣ではない。才能と知恵は同じではない。才能は若くして開花するが、知恵は豊富な経験と知識を必要とする。だから、老いて初めて見えてくるものがたくさんある。IV. 老いは、老いを取り巻く環境によって大きく左右される。老いの暗くて重いイメージは老いに付随する特性ではなく、福祉政策の行き届いた社会では、老いは人生の終焉ではなく、充実した時期であり、安らぎの時期でもある。V. 「高齢者Ⅱ社会的弱者」という社会的な偏見(老人(高齢者福祉)の研究と実践に取り組んでいた40年前の私の考え、意識はまさにそのようなものであった)を捨て、高齢者自身が豊かな社会作りの一翼を担う時代を迎えつつあると思う。前期高齢者の私は、今「全日本年金者組合」の活動、日本高齢者運動に参加し、いままでの人生で身につけた豊かな経験と知恵を発揮し、力を合わせて平和で豊かな社会を創り出し、次の世代に受け渡すという壮大な任務を果たそうとしている。そうした取り組みの中で、お互いに励まし合いながら、厳しい環境の中でも老いの有意義な生き方の一つとして充実した生き甲斐を生み出していけると確信しているのである。たくさんの老いの中には、燃え続ける老いもある。老いはそれぞれの姿をとるが、感謝と思いやりの気持ちを持ち、常に学ぶ心を忘れずにひた向きに生きる、それがすべてではないだろうか。そうした一途な姿の中から色とりどりの光で、老いは輝くのではないだろうか。まさに『老いてこそ輝け』である。

から、老いも人生そのものであり、老いを意識しようがしまいが、青壮期に何を考えどんな生き方をしたかがその人の老いの姿を色濃く反映する。

II. 老いの姿は一樣ではない。才能と知恵は同じではない。才能は若くして開花するが、知恵は豊富な経験と知識を必要とする。だから、老いて初めて見えてくるものがたくさんある。IV. 老いは、老いを取り巻く環境によって大きく左右される。老いの暗くて重いイメージは老いに付随する特性ではなく、福祉政策の行き届いた社会では、老いは人生の終焉ではなく、充実した時期であり、安らぎの時期でもある。V. 「高齢者Ⅱ社会的弱者」という社会的な偏見(老人(高齢者福祉)の研究と実践に取り組んでいた40年前の私の考え、意識はまさにそのようなものであった)を捨て、高齢者自身が豊かな社会作りの一翼を担う時代を迎えつつあると思う。前期高齢者の私は、今「全日本年金者組合」の活動、日本高齢者運動に参加し、いままでの人生で身につけた豊かな経験と知恵を発揮し、力を合わせて平和で豊かな社会を創り出し、次の世代に受け渡すという壮大な任務を果たそうとしている。そうした取り組みの中で、お互いに励まし合いながら、厳しい環境の中でも老いの有意義な生き方の一つとして充実した生き甲斐を生み出していけると確信しているのである。たくさんの老いの中には、燃え続ける老いもある。老いはそれぞれの姿をとるが、感謝と思いやりの気持ちを持ち、常に学ぶ心を忘れずにひた向きに生きる、それがすべてではないだろうか。そうした一途な姿の中から色とりどりの光で、老いは輝くのではないだろうか。まさに『老いてこそ輝け』である。

から、老いも人生そのものであり、老いを意識しようがしまいが、青壮期に何を考えどんな生き方をしたかがその人の老いの姿を色濃く反映する。

II. 老いの姿は一樣ではない。才能と知恵は同じではない。才能は若くして開花するが、知恵は豊富な経験と知識を必要とする。だから、老いて初めて見えてくるものがたくさんある。IV. 老いは、老いを取り巻く環境によって大きく左右される。老いの暗くて重いイメージは老いに付随する特性ではなく、福祉政策の行き届いた社会では、老いは人生の終焉ではなく、充実した時期であり、安らぎの時期でもある。V. 「高齢者Ⅱ社会的弱者」という社会的な偏見(老人(高齢者福祉)の研究と実践に取り組んでいた40年前の私の考え、意識はまさにそのようなものであった)を捨て、高齢者自身が豊かな社会作りの一翼を担う時代を迎えつつあると思う。前期高齢者の私は、今「全日本年金者組合」の活動、日本高齢者運動に参加し、いままでの人生で身につけた豊かな経験と知恵を発揮し、力を合わせて平和で豊かな社会を創り出し、次の世代に受け渡すという壮大な任務を果たそうとしている。そうした取り組みの中で、お互いに励まし合いながら、厳しい環境の中でも老いの有意義な生き方の一つとして充実した生き甲斐を生み出していけると確信しているのである。たくさんの老いの中には、燃え続ける老いもある。老いはそれぞれの姿をとるが、感謝と思いやりの気持ちを持ち、常に学ぶ心を忘れずにひた向きに生きる、それがすべてではないだろうか。そうした一途な姿の中から色とりどりの光で、老いは輝くのではないだろうか。まさに『老いてこそ輝け』である。

から、老いも人生そのものであり、老いを意識しようがしまいが、青壮期に何を考えどんな生き方をしたかがその人の老いの姿を色濃く反映する。

II. 老いの姿は一樣ではない。才能と知恵は同じではない。才能は若くして開花するが、知恵は豊富な経験と知識を必要とする。だから、老いて初めて見えてくるものがたくさんある。IV. 老いは、老いを取り巻く環境によって大きく左右される。老いの暗くて重いイメージは老いに付随する特性ではなく、福祉政策の行き届いた社会では、老いは人生の終焉ではなく、充実した時期であり、安らぎの時期でもある。V. 「高齢者Ⅱ社会的弱者」という社会的な偏見(老人(高齢者福祉)の研究と実践に取り組んでいた40年前の私の考え、意識はまさにそのようなものであった)を捨て、高齢者自身が豊かな社会作りの一翼を担う時代を迎えつつあると思う。前期高齢者の私は、今「全日本年金者組合」の活動、日本高齢者運動に参加し、いままでの人生で身につけた豊かな経験と知恵を発揮し、力を合わせて平和で豊かな社会を創り出し、次の世代に受け渡すという壮大な任務を果たそうとしている。そうした取り組みの中で、お互いに励まし合いながら、厳しい環境の中でも老いの有意義な生き方の一つとして充実した生き甲斐を生み出していけると確信しているのである。たくさんの老いの中には、燃え続ける老いもある。老いはそれぞれの姿をとるが、感謝と思いやりの気持ちを持ち、常に学ぶ心を忘れずにひた向きに生きる、それがすべてではないだろうか。そうした一途な姿の中から色とりどりの光で、老いは輝くのではないだろうか。まさに『老いてこそ輝け』である。

から、老いも人生そのものであり、老いを意識しようがしまいが、青壮期に何を考えどんな生き方をしたかがその人の老いの姿を色濃く反映する。

II. 老いの姿は一樣ではない。才能と知恵は同じではない。才能は若くして開花するが、知恵は豊富な経験と知識を必要とする。だから、老いて初めて見えてくるものがたくさんある。IV. 老いは、老いを取り巻く環境によって大きく左右される。老いの暗くて重いイメージは老いに付随する特性ではなく、福祉政策の行き届いた社会では、老いは人生の終焉ではなく、充実した時期であり、安らぎの時期でもある。V. 「高齢者Ⅱ社会的弱者」という社会的な偏見(老人(高齢者福祉)の研究と実践に取り組んでいた40年前の私の考え、意識はまさにそのようなものであった)を捨て、高齢者自身が豊かな社会作りの一翼を担う時代を迎えつつあると思う。前期高齢者の私は、今「全日本年金者組合」の活動、日本高齢者運動に参加し、いままでの人生で身につけた豊かな経験と知恵を発揮し、力を合わせて平和で豊かな社会を創り出し、次の世代に受け渡すという壮大な任務を果たそうとしている。そうした取り組みの中で、お互いに励まし合いながら、厳しい環境の中でも老いの有意義な生き方の一つとして充実した生き甲斐を生み出していけると確信しているのである。たくさんの老いの中には、燃え続ける老いもある。老いはそれぞれの姿をとるが、感謝と思いやりの気持ちを持ち、常に学ぶ心を忘れずにひた向きに生きる、それがすべてではないだろうか。そうした一途な姿の中から色とりどりの光で、老いは輝くのではないだろうか。まさに『老いてこそ輝け』である。

から、老いも人生そのものであり、老いを意識しようがしまいが、青壮期に何を考えどんな生き方をしたかがその人の老いの姿を色濃く反映する。

II. 老いの姿は一樣ではない。才能と知恵は同じではない。才能は若くして開花するが、知恵は豊富な経験と知識を必要とする。だから、老いて初めて見えてくるものがたくさんある。IV. 老いは、老いを取り巻く環境によって大きく左右される。老いの暗くて重いイメージは老いに付随する特性ではなく、福祉政策の行き届いた社会では、老いは人生の終焉ではなく、充実した時期であり、安らぎの時期でもある。V. 「高齢者Ⅱ社会的弱者」という社会的な偏見(老人(高齢者福祉)の研究と実践に取り組んでいた40年前の私の考え、意識はまさにそのようなものであった)を捨て、高齢者自身が豊かな社会作りの一翼を担う時代を迎えつつあると思う。前期高齢者の私は、今「全日本年金者組合」の活動、日本高齢者運動に参加し、いままでの人生で身につけた豊かな経験と知恵を発揮し、力を合わせて平和で豊かな社会を創り出し、次の世代に受け渡すという壮大な任務を果たそうとしている。そうした取り組みの中で、お互いに励まし合いながら、厳しい環境の中でも老いの有意義な生き方の一つとして充実した生き甲斐を生み出していけると確信しているのである。たくさんの老いの中には、燃え続ける老いもある。老いはそれぞれの姿をとるが、感謝と思いやりの気持ちを持ち、常に学ぶ心を忘れずにひた向きに生きる、それがすべてではないだろうか。そうした一途な姿の中から色とりどりの光で、老いは輝くのではないだろうか。まさに『老いてこそ輝け』である。

から、老いも人生そのものであり、老いを意識しようがしまいが、青壮期に何を考えどんな生き方をしたかがその人の老いの姿を色濃く反映する。

II. 老いの姿は一樣ではない。才能と知恵は同じではない。才能は若くして開花するが、知恵は豊富な経験と知識を必要とする。だから、老いて初めて見えてくるものがたくさんある。IV. 老いは、老いを取り巻く環境によって大きく左右される。老いの暗くて重いイメージは老いに付随する特性ではなく、福祉政策の行き届いた社会では、老いは人生の終焉ではなく、充実した時期であり、安らぎの時期でもある。V. 「高齢者Ⅱ社会的弱者」という社会的な偏見(老人(高齢者福祉)の研究と実践に取り組んでいた40年前の私の考え、意識はまさにそのようなものであった)を捨て、高齢者自身が豊かな社会作りの一翼を担う時代を迎えつつあると思う。前期高齢者の私は、今「全日本年金者組合」の活動、日本高齢者運動に参加し、いままでの人生で身につけた豊かな経験と知恵を発揮し、力を合わせて平和で豊かな社会を創り出し、次の世代に受け渡すという壮大な任務を果たそうとしている。そうした取り組みの中で、お互いに励まし合いながら、厳しい環境の中でも老いの有意義な生き方の一つとして充実した生き甲斐を生み出していけると確信しているのである。たくさんの老いの中には、燃え続ける老いもある。老いはそれぞれの姿をとるが、感謝と思いやりの気持ちを持ち、常に学ぶ心を忘れずにひた向きに生きる、それがすべてではないだろうか。そうした一途な姿の中から色とりどりの光で、老いは輝くのではないだろうか。まさに『老いてこそ輝け』である。

主な活動と参加  
十一月

- 二日 高退協ニュース十一月号発送 高退協第7回事務局会議
- 六日・七日 語ろう学ぼう 2010年教育のつどい 第60次県教育研究集会 どうなってるの県・高知市合築問題 新図書館のあり方を考える学習会
- 十二日 県高運連幹事会
- 十六日・十七日 全退教四国地区交流集会
- 十八日 機関誌「こうたいきょう」第三十一号「第一回編集委員会」
- 二十三日 はたらく女性の交流集会
- 二十六日 食の安全・安心は農業再生で 県農民連 県労連
- 二十八日 県革新懇 回芸能祭
- 二十八日 どうなる・どうする 高齢者医療制度、制度の検討・運動の重点課題学習講座
- 三十日 第八回事務局会議

幡多望年会

幡多地区望年会が一二月三日に四万十市でおこなわれ、現職六名を含め三十八名集まりました。幡多らしく開会したときは、すでに宴たけなわでした。  
二〇余年間お世話してくださいました小野昭先生に感謝して、花束の贈呈がありました。  
また、このたび県政に新風を吹き込もうとしている橋元陽一氏は、新規採用から一〇年あまり幡多勤務に勤務しており、盛大かつ 強力な歓迎をうけました。  
幡多地区世話人代表に森本宏氏が選出されました。

和田

高退協山の会は、結成21年目を迎えた。結成して今日まで、努力してくださった坪井さん達に感謝。また今まで、会を支えていた方々、9名が退会された、残念だ。☆1つの山を中心に、登山を続けようと思った、会を離れたと言へ、新年初歩きや、独自の登山を続けて健康保持に努めてほしい。  
山の思いは、それぞれだが、体力に応じて登り、展望の良いたところで、のんびりすればよい。山の会は、平均年齢7

高退協山の会・結成21年

5歳、上岡会長以下9名の運営委員が、会員の希望を受けて年間計画を立て、総会を経て実施する。山行に先立ち担当が下見をして、難易度を☆で表し、参加を呼び掛けている。高退協事務局には、副会長の土居・県山岳連盟副会長中村ラトラチュリ遠征隊井垣さん達が担当している。  
また、スキー学校には、前事務局長原・事務局松山・島本・橋元・井上さん達、強力なスタッフが、この2月には蔵王で指導してくれる、ぜひ。

三十五囁の思い出 其の八

奈良 東大寺 講堂跡  
松山 和雄

古都の早朝は五感にすがすがしい。日中は軒先を埋め尽くした色とりどりの土産物も扉を閉ざした店の中。団体旅行のお国ことばやガイドさんの声もなく、昨夜の雪がすかに積もった参道に早起きの人の跡をみかけるくらい。

東大寺南大門をくぐって中門に突きあたり、丹塗りの回廊に沿って進むと、緩やかな坂道に交わる。直進すれば正倉院、左に折れると転害門から奈良坂につづくにぎやかな奈良街道に出る。右に足をすずめると赤松の疎林の中へと入ってゆく。ここまでくればこの季節のこの時間、人の気配はまるで無い。わずかに足元から薄く雪をかぶった松の葉を踏みしめる音がきこえるだけ。

二度の戦乱火災にあい今は回廊の外になってしまったこの松林には、現在の大仏殿と同じくらいの幅をした堂々とした講堂があったという。いまは、整然とした配列でみられる大きな礎石だけがその面影を残している。

はじめて来たのは学生の頃、正倉院への途中だった。それから幾度か足を運んでいるが、木々が生長し景観が変わったのか、歳を重ね自分の受け止め方が変わったのか、次第にここにくるのが目的となってきた。賑やかになった古都の中でも、この場所は時間がゆったりと流れている。

ようやく頭上の松の葉枝の隙間から朝陽が降りそそげば、あでやかに礎石が浮き上がる。千数百年の昔、連子窓から射し込む明かりをうけて多くの僧侶が学んだその場所に、幾組かの鹿の家族が身を寄せ合い寒さに耐えていた。

次回予定 東寺 五重の塔

初月の農園だより

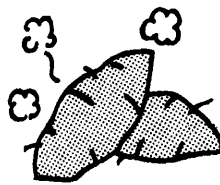
島本 聡

「コンニチハ、ソノハナ、モラヘル」と白人のご婦人が指を指す。その指の先の花は、ズッキーニ。「どうするのですか」と、たずねたいが言葉がでない。プリーズと云うのが情一杯ある。がつぎにそのご婦人からでた言葉は、イタリア歌

劇で聞き覚えのあるアクセント。イタリア人であった。カタコトの日本語と手振り、この花を食べることが、理解できた。イタリアでは、ズッキーニは常食で、日本では茄子のようなものらしい。しかも花も食べるらしい。不思議がつている私を理解してか、翌日、その花に肉を詰めたものを油であげ、持ってきてくれた。

ズッキーニを家庭菜園で作る場合、つるの出ないカボチャと考えればよい。決してキュウリの太ったものではない。花は雌雄別々で、雄花だけ、つぎに雌花ばかりと花が咲くので、何本か開花時期の違う苗がほしいし、春先では、授粉を助ける昆虫も少ないので、人工授粉をしてやる必要がある。黄色いオーラムというのを一緒にうえるのも一案。授粉できてない雌しべは、大きくならないのだ。食べ方は、くせのない野菜で、油でいためたり、カレーに入れたり、みそ汁の具に、半分は切ってチーズを載せるなど、どんな料理にも利用できる。雄花は、吸い物に載せたり、ミンチなどを包んだりして使う、色が全く同じカボチャの花を食べてみたが、苦くて食べられない。

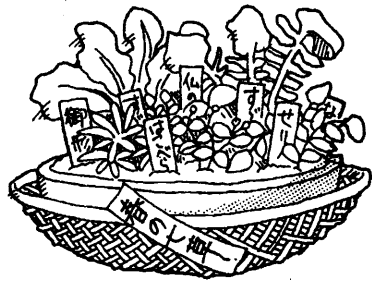
家庭菜園懇談会 # 3



第2回懇談会の参加は7人でした。「さつま芋をスコップで掘ったところ、切れてしまうがどうしたらいいだろうか」(八波)から始まった芋談義は、つるの育てから、畝の作り方、つるの植え方、肥料、保存方法など、芋だけでも、話はつきない。そこへ中村から、彼末さんが参加、小麦を家庭菜園で栽培し、製粉するまでのご苦労を話される。なつかしい幡多のアクセントは、ショパンのピアノ曲を聞くように心地よく響きました。

第3回目の懇談会は下記の日時にておこないます。なおテーマは、春夏野菜および、野菜の料理方法など。2月はカボチャ、ズッキーニ、なす、プチトマト、枝豆、スイートコーンなどの苗を育て始めます。ポット苗の必要な方は、実費(種=2円~60円+育苗用土=5円~10円+ポット=2円~5円)で申し受けます。

島本 (Tel 088-875-6367) まで  
日時 : 1月27日(木曜) PM2時  
場所 : セルフィーユ2階(ブリコ吉田店西)



全退教四国地区第19回交流集会(in琴平町)11/16・17  
「金毘羅さんにきまいたまっちようるさん」(琴平花壇) 小澤 幸泉/幸次郎  
1日目は、午後1時30分開会、文化行事は公演「香翠座・演目「寿式三番叟」郷土民俗芸能 讃岐の人形浄瑠璃 三谷隆彦全退教幹事(四国地区担当)の変わらぬユーモアある挨拶につづいて、各組アある挨拶につづいて、各組(高知、高知高、愛媛、徳島、香川、香川高)から九十七名が参加(うち高知退教三名)参加し、活動報告を行った。記念講演は、「一匹の蛇」(満州開拓事情)と題して高尾 啓三さんが、なまなましい戦争体験を語られました。戦争の惨禍について知らされました。夜の懇親交流は歌声、踊り、寸劇などそれぞれに、隠微を披露し合い、大いに飲み、語りあい、交流を深め合いました。二日目は、分散会で、テーマ「今、伝えよう、平和と生命(いのち)の責」に沿って、退職教員として\*生きがい、健康、趣味、サークル活動\*教育、平和、民主主義の活動\*会員ふやし、仲間づくり、多様な討論の柱が与えられ、自己紹介をとおして、一人ひとりの状況や思い、悩み、決意、取り組み希望など、語り尽くせないもどかしさのうちに閉会しました。参加者全員が輪になり、肩組み合って、「沖繩を返せ」「緑の山河」を心から合唱をしました。去り難く別れを惜しみ来年また元気で会いましょう。(おみやげ)香川高退協の小野輝子(80歳)先生から  
北国(健康体操)  
♪白樺 青空(両手上にあげて深呼吸)♪南風(右へ左へ風のようにゆらす)♪こぶし 咲く(こぶしを握って、パッと前へ)  
♪あの北国の 北国の春(くり返し)♪季節が都会ではわからないだろうと(肩たたき(右肩と左肩)♪届いたおふくろの小さな包み(脚の部分から下へたたく、脚の後ろの部分を下から上へとたたき)♪あふるさとへ帰ろうかな(両手)♪右へふるさとをさすように体をねじる(左へ4回)  
♪間奏(手をたたきながら脚をあげて足ふみ)